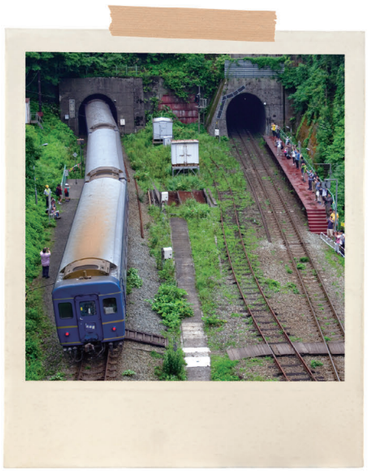


[お問い合わせ先]

北海道鉄道観光資源研究会
rail-hokkaido.net

北海道鉄道観光資源研究会
代表　永山 茂

札幌市中央区北２条西２丁目　札幌２・２ビル１階

080-4322-9219（事務局長　長野）

Mail information@rail-hokkaido.net

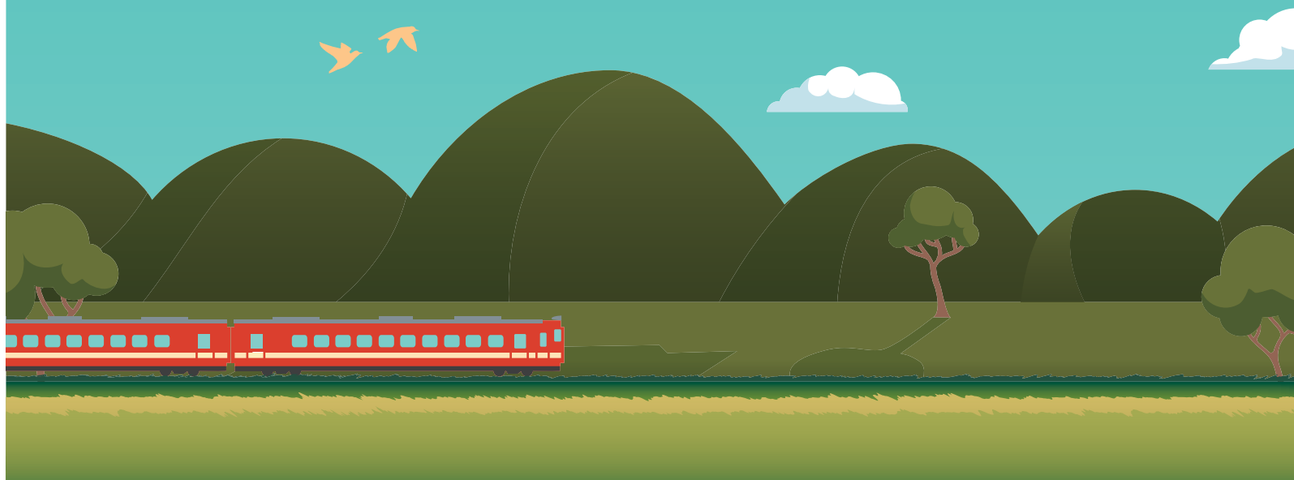
Website http://rail-hokkaido.net/

Facebook https://www.facebook.com/railhokkaido

鉄道資産・遺産を

地域の賑わいに、旅の味わいに。

北海道鉄道観光資源研究会
rail-hokkaido.net



[　ごあいさつ　]

鉄路が拓いた北海道

明治時代、北海道は資源開発のため開拓使が設置され、
近代化がはじまりました。
石炭運搬のための鉄道が敷かれ、やがて街ができ、
鉄路が人々の暮らしを結び、そこに多くのドラマが生まれてきました。
やがて道路網が整備されると、次第に多くの鉄道路線は廃止され、
時代とともに移動の主役は自動車へと変わりました。
しかし、時代が変遷しても鉄路の魅力は変わりません。
多くの子どもたちの憧れであり、
かつて生活をしていた人々の思い出であり、
旅人たちの出会いの場でもあるのです。
今ある鉄道、かつてあった鉄道、おもちゃの鉄道。
これらを再び磨いて光をあてる取り組みを、私たちは目指しています。

北海道鉄道観光資源研究会
代表　　永山　茂

「失われた鉄道の魅力を蘇らせて、地域の活性化を」

北海道鉄道観光資源研究会は、メンバー全員が鉄道ファンであり、趣味で培った知識・知恵を活用した社会貢献を目的としています。つまり、個人の趣味・興味の延長線にある、ひとつひとつの小さな輝きを持ち寄って、地域の隠れた鉄道観光資源を磨き上げることで、失われた鉄道の魅力を蘇らせることができるのです。
地域の方が失われた鉄道が持つ潜在的な魅力を再認識することのお手伝いをすることで、再び近郊から、日本全国から、海外から、旅の楽しみを味わう人々が集まり、地元と一緒に盛り上げていくことができれば、趣味の延長として、この上ない喜びであると思っています。
原則として、毎月第一木曜日に定例会を開催しております。

主な活動

2015年8月　「赤い電車保存プロジェクト」

クラウドファウンディングを活用して、廃車解体の危機にあった北海道初の交流電車711系を買い取り、岩見沢にて保存。地元団体「岩見沢赤電保存会」に活動を引き継いだ。
翌年2016年7月には、地元団体と協力し、北斗星車両を北斗市茂辺地に保存。

2015年11月　「北海道の鉄道の日」制定への参画

小樽市手宮ー札幌間の鉄道輸送が始まった日「11月28日」を北海道の鉄道の日と定める関連イベントの開催に協力。

受賞歴

2015年10月　第９回「産業観光まちづくり大賞」銀賞受賞

2007年度に「全国産業観光推進協議会」により創設された、観光による地域振興の新しい手法として注目されている「産業観光」による観光まちづくりを実践し、模範となる地域を表彰する制度。

その他

- 北海道内の自治体や団体と協働した鉄道観光資源の利活用への取り組み
- 保存鉄道や鉄道遺構の再活用と観光ルート化を目指す魅力探し
- 旧国鉄線・私鉄・軽便鉄道・森林鉄道等の廃線跡探索、調査・研究
- 子どもたちに鉄道への親しみを持ってもらうための取り組み
- 鉄道文化遺産を「次世代への観光資源」とした保全・活用の提言